

船舶事故等調査報告書

平成26年11月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014広第114号
事故等種類	灯浮標損傷
発生日時	平成26年5月16日 10時22分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市水島港（水島港港内航路第2号灯浮標） 倉敷市所在の六口島灯標から真方位013° 1,700m付近 （概位 北緯34° 26.8′ 東経133° 45.9′）
事故等調査の経過	平成26年7月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	油タンカー 五号 ^{ひさしげ} 寿重丸、198トン
船舶番号、船舶所有者等	133710、有限会社早瀬
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	本船 なし 灯浮標 防護枠に曲損
事故等の経過	本船は、船長ほか2人が乗り組み、船長が1人で操船に当たり、自動操舵により、約11ノット（kn）の対地速力で水島航路を北西進した。 船長は、ふだんどおり、水島港の港内航路の右側端に沿って航行中、西方からの風に圧流され、平成26年5月16日10時22分ごろ、本船の船首部が、水島港港内航路第2号灯浮標（以下「本件灯浮標」という。）に衝突した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 4 海象：潮汐 上げ潮の末期、潮流 東流約0.5kn
その他の事項	本船の喫水は、船首約0.4m、船尾約2.4mであった。 船長は、水島港の港内航路の航行経験が約30年に渡っていた。 船長は、1.5海里レンジに設定したレーダーを使用しており、映像の映り具合は良好であった。
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	あり
判明した事項の解析	本船は、水島港の港内航路を自動操舵で北西進中、西方からの風潮流に圧流されたことから、本件灯浮標に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、水島港の港内航路を自動操舵で北西進中、西方からの風潮流に圧流されたため、本件灯浮標に衝突したことにより発

	生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・風による圧流を考慮した操船を行うこと。